

## 平成30年度助成事業活動の概要と成果

出版助成

No.2929

『「満洲国」の日本人移民政策』

摂南大学外国語学部

講師

小都 晶子

本助成によって、『「満洲国」の日本人移民政策』(汲古書院、2019年)を出版した。

1932～1945年、日本は約27万人の農業移民を中国東北地域に送出した。本書はこの日本人農業移民(以下、満洲移民)の人植地となった「満洲国」(以下、括弧を省略する)がこの政策をどのように実施し、それが中国東北地域でどのように展開されたのかを検討する。これによって満洲移民を中国東北地域の歴史的な文脈において分析し、政策に対する地域の側の関与を把握することを目指した。

本書は、第1部「中央の政策決定と実施」と第2部「地域における政策展開」によって構成される。第1部は満洲国中央の政策決定とその実施を検討し、全4章からなる。第1章は満洲国の移民行政機関の設置・拡大過程を、第2章はこれらの現地機関が実施した政策の具体的な内容を、第3章はそのなかでもとくに重要な業務となった移民用地の取得・開発・配分を、第4章は移民行政機関のもとに設置された開拓研究所の調査・研究活動を検討した。

第2部は個別の地域における政策展開を検討し、全3章からなる。第5章は初期の樺川県で移民用地の取得が地域の大規模な抵抗運動である土龍山事件を引き起こした事例を、第6章は中期の盤山県でアルカリ性の未利用地を改良して移民の入植地となる農地が造成された事例を、第7章は日本帝国圏内の食糧供給が逼迫した末期に徳恵県で既利用地を「開発」する「緊急農地造成計画」が実施された事例を取り上げて検討した。

すなわち本書は、満洲国の日本人移民政策を日本側の政策とは異なる枠組みによって進められたものとして、その実施体制や政策展開を実証的に明らかにした。これによって、満洲国の日本人移民政策が地域の反応や日本側との緊張関係のなかで進められたことを指摘した。

No.2930

『トルコにおけるイスラーム神秘主義思想と実践』の刊行

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科  
イスラーム地域研究センター 客員准教授  
イディリス・ダニシマズ

本書（イディリス・ダニシマズ『トルコにおけるイスラーム神秘主義思想と実践』ナカニシヤ出版、2019年）は、イスラームのジハード（語義は「奮闘・努力」）の二つの意味、すなわち「戦場における敵との戦い」と「自分のエゴとの戦い」のうち、後者を重視するイスラーム神秘主義思想（スーフィズム）を対象とする。さらに言えば、イスラーム世界の一大帝国であったオスマン帝国の代表的神秘家（スーフィー）、ブルセヴィー（Ismail Hakki Bursevi、1725年没）の神秘主義思想を、彼のクルアーン（イスラームの聖典）解釈と神秘的な宇宙論にみられる、「倫理的・実践的解釈」という独自の視点から分析したものである。分析の詳細については、本書を参照していただきたいが、ここでは、本書の刊行の意義と期待される波及効果について述べた。

本書の刊行は、テロや紛争等の情報によって歪曲されている日本のイスラーム理解の是正に貢献できたと言える。実際、現今のイスラーム関係の書籍では、宗教と暴力が関連付けられることの多いイスラーム原理主義に著述の重点が置かれ過ぎており、イスラームのより平和的な側面が無視されがちであると専門家は評価している。スーフィズムはイスラームの平和的側面に関するものであるために、それを扱う本書は、よりバランスのとれたイスラーム認識の形成にも役立つだろう。

また、近年、欧米で発生したテロの多くが非イスラーム世界の国籍を持つムスリムによる犯行であると報道されている。このようなテロ犯は、自らの過激主義の正当化のために、しばしば、過去の紛争時における法学的見解を好む。そして、それを、そのコンテキストから切り離して、現代社会に適用しようとする。であるならば、彼らの武力闘争思想に対しては、伝統的な宗教思想のなかから理論的反論を示すことが重要となる。従って、スーフィズムに関するものであるため、本書は、現代国際社会の重大な問題の一つであるムスリム社会における急進化・過激化を抑止する一助となると期待する。